838
297
116

極

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

宇多源氏

宗極

宇多源氏 本村磯部
佐々木 阿波 加治木
倉田 野木 後藤 古志井
高岡 河吉 万木 菅沼
後澤田 島津 長江 佐保
伊勢山中 大原 音 島脇
又 高山 高嶋 西條 鳥山
高瀬 宮子 宮賀 倉田 菱沼

宇多源氏

宗極

本國近江

敘四位下

宇多天皇 ― 第八皇子 敦實親王 ― 一品式部卿 四男 扶義 ― 中宮大夫 右中弁 左大辨

左大將大藏卿

根岸信輔氏寄贈

成頼

從四位下 鎮守府將軍 佐々木兵庫頭

母源是輔女

住近江刕佐々木荘城政神像之鴈鴛号佐々木始取号箭

八刕兵遣 変下実康平七年七九卒年八十九号江國寺殿

章經

從四位下 兵部大輔

母朱雀院御乳母菅野 乾頼女

江刕根追補使佐々木宮神主

京極 宇多源氏 本系近江

佐々木 阿波 加治 木村磯部

倉田 野木 後藤 古志井

高岡 湯 吉田 万木 菖岡

鏡 澤田 馬淵 長江 佐保

伊佐 山中 大原 春 鳥脇

夫馬 高山 高嶋 西條 鳥山

黒田 宇津呂 高谷 岩山 藪智

高橋 尼子 宇賀野 多田 多賀

又〃

寺島

京極 本国近江 紋四目結 五三桐

宇多天皇 第八皇子 敦實親王 一品式部卿 四男 扶義 左大臣大藏卿 中宮大夫 右中弁 左大辨

成頼 従四位下 鎮守府将軍 佐々木兵庫頭

母源是輔女

住近江州佐々木荘城政神像之鴈鷺号佐々木始取弓箭

八刕兵遣覧下矣康平七年七九卒年八十九号江國寺殿

章綱 従四位下 兵部大輔 江州根追補使 佐々木宮神主

母朱雀院御乳母菅野 就頼女

岸信蔚氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

号國光寺

経方　従四位下　兵部亟　兵庫助　源次支　佐々木下司
　女　後冷泉院女房　綾方
　号賀光寺

季定　始為俊　従五位上　式部大輔　号常盤憲　冠者　源次支
　女　新羅三郎義光女
　江州據追補使
　号長光寺

秀義　佐々木三郎　源三　兵部亟
　為六條廷尉源為義嫡子　重代太刀鎧相傳之
　平治乱京都大乱為下野守源義朝　源氏十六騎内也
　義朝亡時遁迹江州　治承四年庚子　源頼朝挙義兵時
　進子息等其身参会州矣
　壽永二年癸卯七十九伊賀國軍　秀義進退手指手氏
　矣元暦二年乙巳四七依病出家号久山同九日沈　年七十三
　号長命寺

定綱　佐々木太郎　検非違使　従五位上　左衛門大尉
　女　六條判官為義女
　至伊豆州頼朝配所　守盛綱俱謁見館事
　頼朝挙義兵時従行矣　自伐山木判官兼隆時
　警敗後見提槍等　石橋山役先登四人尽力戦　杉山堀口
　軍定綱先懸之建仁二年癸亥多　六九四誅阿野法橋全成
　其男令在京　有野心声　同年七十六於東山延年寺
　誅全成之子頼全等

元久二年乙丑四七出家同十五日卒年六十四
于大泉寺秀久

- 経高 妙同
  - 阿波二郎 佐々木二郎左衛門 中務丞
    治承四年庚子杉山合戦之先懸寿永二年癸卯十二月二於
    頼朝卿前並数上總権介能常後出家于経蓮
    承久三年辛巳六十六合戦時度々院中西面詰官兵合敗走矣
    後在京為合戦門乃使者内島二郎未曾有命経蓮
    曰是励自殺使也盍断之矣経蓮所見違示送自殺皆本意也
    枝輿向六波羅武藏守見違示送自殺皆本意也
    経蓮所面目快笑矣云詞遂死矣

- 高重 佐々木弥太郎 大夫尉
  - 高範 佐々木弥二郎 左衛門尉
    女子 仕頼朝卿
  - 高兼 佐々木左衛門尉
    政二同詰 加治二郎 左兵衛尉 左衛門尉 従五位下
  - 盛綱 妙同
    治承四年庚子杉山堀口合戦先懸西
    仁安元年丙子十七依文之命至豆州給事頼朝卿
    法名西念

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

成岡 木村源三
紀 母多女
信實 加地太郎 入道西仁
寛元元年七廿六死年六十八
盛季 小三郎 右兵衛
盛則 四郎 右馬允
女子 頼朝卿女房
秀忠 磯部九衛門尉
實秀 加地二郎 九兵衛
号荻迷
時秀 加地二郎九郎
濃實 加地九兵衛尉
義綱 倉田五郎
時基 加地六郎九郎
重泰 加地四郎
章純 五郎

高綱 野木 四郎 三宝 九衛門尉
母同
治承四年庚子楯山役前懸七
元弘宇治川一陳依賞賜九州
住高野山 正月二十日死

重綱 野木太郎 建仁二年山門堂衆追討時戦死
光綱 野木弥太郎 九衛門 出雲寺
高重 佐々木九衛門 泰高

泰高 野木九郎門尉
清高 野木二郎

景宗 野木九郎
光高 野木二郎

時高

高家　野木之卿

高定　野木四郎

行綱　野木五郎

景家　野木七郎

義清　紋二輪違　佐々木五郎　左衛門尉　従五位下　隠岐守　出雲守　心願入道

女　渋谷庄司重国　母

始住相州大庭為大庭之卿景親聟石橋山役欲賀朝臣由是平氏追討之後不賜食邑合戦先懸七騎出雲隠岐元暦元年木曽追伐宇治橋一陣同二年五月和田合戦蒙創矣

定海　大輔房

政義　隠岐太郎　左衛門尉　号夏頃

泰清　従五位上　信濃守

清政　村　左衛門

義明　村　二郎

義高　村　三郎

高政　村　彦二郎

義重　隠岐太郎　左衛門尉

時信　仏条隠岐守

清賀　因幡房

頼泰　塩屋三郎左衛門

義泰　富田四郎左衛門

菊清　五郎左衛門

重泰　本郎

重義　二郎

時秀　六郎　陸奥守　変厩

高貞　塩屋判官

時綱　自泰

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

基頭　後藤五郎左衛門尉信濃守
為後藤基政子

頼清　七郎　左衛門尉
泰信　十郎　左衛門尉
頼貞　七郎
信清　古志次郎
宗泰　八郎　左衛門尉
宗義　井上八郎
宗信　古志二郎
義信　古志二郎
清村　十郎左衛門尉
出清　源清
湯浅次郎養子

頼清　二郎
基貞　四郎
頼貞　五郎
師宗　高田八郎

厳秀　吉田六郎　法橋
義基　河内源太左衛門尉
義久　左衛門尉
義宗　二郎左衛門尉　頼清
秀信　吉田三郎左衛門尉
秀長

広綱　万木太郎　高岡左衛門尉　後鳥羽院北面従五位下　検非違使
泳久　二年辛巳四十六　山城判官同年為院方被預子細
同七三鳥羽

惟綱　太郎左衛門尉
為綱　山城二郎
竹輪綱　左衛門尉
竹輪定　万木二郎
葛岡左兵衛
範信　万木太郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

親綱 山城二郎 葛岡式部亟
清定 葛岡太郎
某 堀多加丸 御室兒
隊父孔伏誅

定重 鏡 小二郎兵衛尉
建久二年 平於行山門成
悉偽之新京都於辛島偽
獄首

定高 澤田二郎
時定 太郎
隊父建久二年方伏誅

久岡知 鏡右衛門尉
定廣 太郎
左衛門尉
定豪 山阿
大豆渡自殺

信綱 佐々木四郎 左近將監 右衛門尉 龙衛門佐 近江守
妙新田大炊助義重女
信定 太郎龙心
秀信 太郎龙心
定成 長江龙之進 養子
重定 四郎龙心

廣家 陸奥守
定豪 山阿
大豆渡自殺

源太郎太夫心

信定 葛岡太郎

定廣 馬淵五郎 龙心尉

特綱 佐保六郎 帯刀龙心尉
公秀 三郎

正治二年庚申五月攻戮江州柏原弥三郎建仁三年山門堂衆追討之時懸二陣元久二年乙丑閏七廿三武蔵右衛門佐朝雅追討時進一陣討死承久之乱四十六龙近將監泳久二年六月廿日薨給建曆二年登爲八月任関東方負進二年庚申十六龙衛門佐嘉禄二年檢非違使寛喜二年庚卯正月九廷尉迫江守同二年辰正月九進江守天福二年甲午正月九加俗定衆同年七月六出家宇經佛亦改虚假四二治二年己亥肩衣孔年方十二宇天源光尊法師

女子
女子 春花門院 従二位 公世母
行綱 伊佐七郎左衛門 長州住 佐別府
頼定 山中十郎
定巖 常陸房
定賀 山僧 伯耆之権守 柳原 為光 信綱子

重綱 大原太郎 左衛門尉 従五位下
時綱 永久元従又信綱宇治川梶波文永四年六十四元忠澤
大隅判官 九郎 左衛門尉 討馬守

貞重 九郎 天
貞信 天
貞頼 春熙二郎
時秀 鳥飼四郎左衛門
時重 五郎 備中守
等観 僧
重信 高山六郎
宗重 八郎
女子 長井甘後守 妻
女子 加地筑前守 妻

義信 備中守
親信 大馬二郎左衛門 号明順

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子

女子 青蓮院 従二位公世母

行綱 伊佐七郎左衛門 長州伊佐別府

頼定 山中十郎

定巌 常陸房

時秀 [illegible]

時重 五郎 備中守

等観 僧

重信 高山六郎

宗重 八郎

女子 妻

女子 長井甘後守 加地筑前守 妻

義信 備中守

親信 大馬二郎左衛門尉 [illegible]順

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用　挟み込み物

女子

女子　青龍院　従二位公世母　祖母

行綱　伊佐七郎左衛門　長州伊佐別府

頼定　山中十郎

定巌　常陸房

定賀　山僧伯耆之住宮御　為兄信綱子

時重　五郎　備中守

等観　僧

重信　高山六郎

宗重　八郎

女子　長井甲斐守後室

女子　加地筑前守妻

義信　備中守

親信　夫馬二郎左衛門尉　号明順

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用　挟み込み物

女子　園城寺大住僧正公猶母

女子　春花門院従二位公也猶母

行綱　伊佐七郎左衛門　長州住別府

頼定　山中十郎

定厳　常陸房

定賀　山僧伯耆之住宮御　為光信猶子

時重　五郎　備中守

等観　僧

重信　高山六郎

宗重　八郎

女子　長井甲斐守後室

女子　加地筑前守妻

義信　備中守

説信　夫馬二郎左衛門尉順

高信　高島二郎　左衛門尉
　初高島氏
　佐々木三郎　六角壹岐守　陽岐守
泰綱　初北條武蔵守泰時分
　嘉禎二年閏十一廿二　被遣使同三年丁酉正十九叙留
　同廿四日叙正五位下正嘉元年丁巳日吉神輿入洛時依防之
　賜後深草院六角御所昇殿
　建治二年丙子五十七卒　手六子四号西光寺殿生西
　佐々木太郎　左衛門尉
経泰　佐々木六角　備中守　被遣使　従四位下
頼綱　為婿子蒙勘江州佐々木六角承嫌
　宇宗光寺殿宗西

長綱　四條壹岐守　四郎
　軸綱　鳥山五郎　左衛門尉
　綱賀　阿閉梨
　忠輝　權大僧都
　女子　海東備後守藤原忠直妻
氏綱　三郎　高長
　四郎　對馬守
　左衛門尉　佐々木近江守信濃守高島守護改
氏信　初北條泰時分
　得文信綱所領江州愛智犬上坂田伊香淺井高島守護改
　屋州長岡庄一万貫并京都高辻京極居鴨祢京極
　嘉禎元年未任左衛門尉仁治二年辛丑八月將軍頼經鷹岡

八幡参詣時務調度懸之役建長二年康成任検非違使叙
従五位下任対馬守康元元年丙辰辞検非違使也正嘉二年
戊午七月給対馬守文永二年乙丑六月加賀守叙四三年己卯
十二月例評定衆弘安六年癸未十月任近江守同年十二月叙
従五位上同九年丙戌四四出家号道善
永仁二年甲午五二卒七十大建二宇於葬地号清瀧寺
法名清瀧寺殿前江州道善

女子　土屋左衛門尉光時妻　遠経母
女子　二階堂和泉守行方妻　行景母
女子　長井甲斐又守泰秀妻　時秀母
女子　千葉介　胤綱妻

頼氏　佐々木太郎　左衛門尉　豊後守
　出雲守家子房右衛門督

氏綱　佐々木三郎左衛門　義信　佐々木三郎左衛門
　城陸奥守入道追討之時賞有軍功任豊後守
　永仁五年丁酉五月卒年五十六

頼綱　佐々木四郎左衛門　女子
　承久兵乱　佐々木五郎左衛門

女子　尼

範綱　佐々木二郎左衛門
　弘安五年壬午十五七九年二十
　長井三郎　改宗秘三郎左衛門佐　法名渡守　従五位下

満綱　佐々木三郎左衛門佐　法名渡守　従五位下
　弘安五年壬午十五七九年二十
　長井三郎　改宗秘三郎左衛門佐　法名渡守　従五位下

宗氏　宗秘三郎
　本家貞宗卒無嗣故宗氏為貞宗之嗣

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宗満　黒田四郎　左衛門尉
正安三年三月廿八出家号道法
延文二年十月廿日卒年七十九

女子　佐条加治右衛門尉経綱妻
女子　足利上総介　満氏室
女子　梅田尾張次郎　祐時妻

宗綱　宗桂四郎　能登守　従五位下　左衛門尉　検非違使
号宗快弘安八年七月初従五位下任能登守

祐信　宗桂四郎左門　不孝
時綱　宗桂四郎右馬　丈

貞宗　宗桂三郎　正六位上　左衛門尉
嘉元二年七月五日卒年十九

女子　佐渡判官宗氏先室　貞安母
女子　豊前寺　宗清母

信賀　権少僧都　田中信濃

洪賀　権律師　播磨
猷賀　信濃
成賀　三河

女子　武石肥前守宗胤室
女子　武部卿　宗房室

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

始一信
宗氏 京極三郎従五位下左衛門尉檢非違使佐渡守満信長男
寛佐渡守満信長男
嘉元二年乙巳五月為負宋之嗣継遺領
應長元年辛亥六十四出家号賢觀入道
嘉暦四年己巳七十六卒 法名
成綱 佐々木
廿露寺
勝秀
定信 宇津呂太郎左衛門尉 檢非違使佐渡守
号池田
貞高 宇津呂三郎左衛門
号正意

定氏 佐々木左衛門尉
祐綱

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

京極四郎左衛門尉　佐渡判官　按察使　従四位下　道誉入道

高氏

女

生於江州正和三年寅十二月従四位下佐渡守
元弘二年壬申笠置城落去遁　後醍醐帝於隠岐国時
嘉暦元年丙寅二月廿六日叙按察使
高氏道路令驚衛近於配所焉
建武二年乙亥十一月　新田義貞帥大軍發京都而欲
七足利尊氏尊氏不好戦由是道誉上杉細川相議而
勧軍於左馬頭直義直義喜發鎮倉道誉與
吉良石堂上杉桃井細川畠山尾張仁木今川岩松
高南部大高小山三浦土岐宇都宮小田佐竹狩野
松田川村土肥土屋以下北方七千餘兵同北四日着
三州矢矧同年十二五戦於矢矧川無利而一同
退於鎌倉矣然尊氏依直義之諫暑變不發兵於
相州箱根路與義貞之兵接戦道誉以下方戦遂擊敗
義貞之軍義貞失利退於尾州矣
延元元年丙子正月在陣参於山門三千衆徒等擁護
之主利直義議高止尊氏軍勢定手方同年六二攻山門北戦
負是正於北月不変焉北陸道足利尾張守高経峯路次不
通入小笠原信濃守陣野路篠原修理亮湖上往返之船矢時
道誉潜自京都四千騎勢出東坂本降参曰江州也
我等守護國也然小笠原信濃守為守護職今茲滞上
洛之道不憑令合戦以其力聽為管領道誉既歟大面目
也若不退陣帝國守護職於我速追落小笠原手國中
諸勢於官軍不可後時助主上義貞不知謂計有頼卿

任道誉之堅當國寺護職友使免關所地數有十所被
究行之以遣道誉於江州
當國平自勝軍家賜我也小笠原信濃守落飛乱指
國令上洛道誉力為管領
忽之照古秉助孝命欲向
江州自志州渡為報道誉
元七年潜船於坂東也
願應元亨以貞秋一族
従等拆城法號南庵枫杖門至覧之秋夕乱色猶業於
二月光有乱詠門吟時早可製坊官一人出庭訓之而来
啟門陌拆大條病直法師
憤以言共押入鑿火逃時風烈焚建仁寺蟠蔵開山塔
塔頭瑞光菴為灰燼文妙法院門主逃光堂未行于

若宮迎之板布下道誉自是源之判官主懸令折柳之山門震
怒参聞公家訴道誉秀綱等可行死刑之旨於武家
公卿之計不能一所訴武家也尊氏直義驚迭訴而有
道誉文和元年夏之意以
罪未乱鳥山門議而上大意八王子神輿於中堂侍者院諸
堂謂遮未寺未社門門戸止祭禮尊氏卿還山門敢訴
難黙止聞之公卿有会議以院宣宥山門於受拳敢
神輿於本處同二十五日道誉秀綱之罪宥免各配流
山遣卿道誉即往三百余人陪従前後送之至于江州
國分寺其徒皆散猶仗勝鬱亡道
路設酒肴痛々寺頂城禾同時帰洛人々未曾有罪人也
其後蒙赦免故国矣康永四年七月九京都天龍寺
尊氏直義参詣随兵一番之中也
貞和四年十一月六於三寺橋正行自凡宇野北

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

改懸于山名伊豆守時氏之陣
以上其一族高武蔵守師直執
道誉手加御直之陣出兵而楠
出兵於四條畷道誉與二千余
共利義元年後道誉下向
観應二年卯月山名右衛門佐
師氏以憤事切先辞
地本賜若狭所今積兇為
請賜於道誉道誉進歌會
請賜於道誉道誉進歌會而不面往過數剋山名逐
帰矣敢也因茲師氏與其無猶是欲為不及訴故不論而若
心甚可敬此遺恨同二年暁
于又伊豆守師氏
之本貞氏吉田肥前房有出雲
吉野殿同年卯月伯州
和田橋出兵赤松祝部道世
馬細川相模守清氏與道誉不睦加賀國守護職也富樫介自叡
至今無異也今茲富樫介病死男子幼道誉為後見張之
欲與加賀州守護職細川相模守察有是事
場守護諸々御教書道誉
國福岡庄也頓宮四郎左衛門所領也頓宮軍忠
之頓宮後屋細川清氏若軍忠
則被道誉之婿也押國文上表而頓宮不能還住於所領細川清氏
對憤而恨道誉馬揚州守護職守道誉無留得之頓宮四郎左
判官秀詮細川吟味而令馬安堵
也天今変七夕夜
於受清氏料理
燃道誉之宅莊七所調七
孝茶招請將軍於巳館

則延台可參軍門云然清氏陽諾及歸顧何辛可支決
守使僧無面無返言使僧歸告之清氏無陳言定計乎可策焉
射一矢可決服界古馬助頼利大夫時為氏長契約氏
猶子仁木中務大輔俊房兵部大輔氏者六人中陽堅武臭
重恩新參即往合七百餘騎也今進野立百騎我可向生駆參
義親兵隨清氏七百餘騎與醍入坊中名義尋ヶ進落道
清氏責才乎西日以無實欲二十三日早旦落石般向四九可日
將軍自參鎮野陣本館一夜同年十三吉野殿二條西條文義
石壹刕和卿頼房細川相模守和田楠湯浅山本恩地粉等凡
二千餘騎堺浜江住吉天王寺同乃島將軍未戰而落荊武者
南方官軍大都道參落都時已定畠所有名大半可之智乎六閒
舍所數艘大紋鷺木章昭編花瓶香爐子畠置之
書院義之草書偈韓愈文集眠藏沈枕紙子布道添
置之十二間遠俊為名白鳥懸並之三竿三石計大筒

池酒進世者天福置誰中来此荷所筆可進一献言道為
楠一番為為進世者天出入此荷所筆可進一献道参神門
乎置之也名代出迎天道参以為清氏く欲此荷所可燒失
面楠感猶止毀故泉水木不損容殿豈不失制造待酒者
自前沽酒進献秘藏鐘白幅輪太力一振置之即等一人
此置為校智於道参文路都守故人落也
山名伊豆守為使為返陌刀赤松彭五郎則範貴依参則範
之前下播刀為地前修理大夫道朝男左衛佐以下
三千餘騎馳着江刀武作寺備中守頼宗加道参道参兵衛尉
土奴打捉一揆分仁木之向城起鈴鹿山未修原荷
自治五年中二四於湯軍之御所催花宴言道参
京中物上手等不残引具之設大原野花下宴既其日住軽
裘服為筆赴大原小塩山駐車於楢亂手採瑞蘆攀

通曲徑幽處禪房花木深高欄文杏裏旋甃石爲井銅瓶索綆
橋板展大唐繩吳越錢王鏤金爲弩潛江錦落花積上朝陽不到
須臾似留橫橋一板雪路迂迴汲復香遠登風磴竹覆
竹甘泉立置石臼茶湯得天仙紫蘇屈曲枝每高縣平江帶堂檐頭香爐雁名
沈水春風香暖不覺怪文林捆檀供晚爨里迴首四山
烟霞重疊山川雞峙不假筆丹青十日一水精神聚云
足不移寸步四海五湖風景立得也一生之樂遠適山水堂
庭十圍花木四本下鋪十丈餘絢石花靴造一雙花徑傍
饌曲泉調百味珍膳飲百服李非懸物蛩猿樂一回翻鸞
翅白拍子倡樂濃而帳者高名座人解大口小神抱與之興闌
日酣歸路無月松明耀天鈿車軸裏細駕鴛鴦馳散喚叫只
不異過衢三尸百魄此遊爲治未曰遊管領開之是歟

將軍家花下遊也心含寶劍之客家役道眷而年老不出管領悅近年館之相
沒收旧領河州多而爲而爲政所之料道眷怒欲管領詣
請度說管領真偽不分而無始道朝定伏誅潛仰六角
入道宗永石江州狀道朝陸之而四年八三晚景出將軍之
前石崇不富於身不覺抑道朝以才庸愚爲行大任重
器職以譏可笑無乳明得疑若及催諸國勞仰待人賜
況於之諫之正暮光後景即戸何懼乎將軍無言良久爲道朝
爲退將軍進石道朝今世不任心報有下而越前可者諸人之
道朝畏退去矣依之未前入道崇永寧相鎌矣百年騷
未屋舘警固四門京中騒動不一道朝怕射一矢企切膽
收軍使之寶院覺濟御迁永數省之四下而北陸矣
道眷軍力十九度應安六年五月廿五辛亥

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

貞満　高谷六郎左衛門
建武二年七月十五日越軍ニ戦死

高秋　高谷四郎備中守
秀遠　高谷八郎

義春　高谷四郎
高信　高谷五郎

信高　岩山五郎左衛門
時満　鞍智四郎左衛門

時秀　鞍智四郎
氏満　源三左衛門
信秀　三郎　号浄慶

満高　源二左近将監
高信　左衛門尉

女子
女子
経氏　六郎

正和二年甲寅十二月任左衛門尉元亨二年壬戌捧非違使
正中元年甲子十二月叙従五位下任伯耆守同二年乙丑三月
剃髪号道誉建武二年乙亥正月尊氏賜偏諱補摂津国守護職
證文　家傳延元元年　康安元年辛酉
　　二月誤也
應安元年戊申八月加相伴列同六年癸丑八廿五辛去

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子　赤松律師　則祐室

女子　尾張左衛門尉氏頼室

秀綱　佐々木源三判官　備前　近江守　従五位上

女

生於祇
園寺元年戊寅秋父道誉友一族若党門連放鷹於郊外
飯路下部卿等折妙法院南庭楓枝門主御覧秋夕
氣色深霜紅葉風詠賜於二月花詣半可御止之旨仰
坊官一人走出於庭制之而不聽剰悪口罵詈等
驚怒狂狼著捕之令打擲追出於門外父道誉憤之以
三百餘兵押来懸火於御舘風甚火炎建仁寺輪蔵閣
山塔塔頭端光菴等為灰燼矣妙法院門主駿河章
廻光堂之中御弟子若宮廻
之火鎮而山門衆徒紅葉聞
可行死刑也然今者任公卿之議不
道義令貶屋山門訴牧大宮八王子神輿於
中堂傳諸堂院之講筵寺未社亦閉門戸

止祭禮尊氏遁難默止山門之噉訴力含憤聞之
公卿有衆議以院宣宥止山門於是孝俊神輿北五日
究道奪秀綱之職又子配上總州山邊郡
後又子當家勘免上京
文和二年卯六月十三日義詮卿守護能登落
秀綱細川三百餘騎欲襲止落人者坂口美濃守貞満同掃部
見遁秀綱裏討之仍本三郎左衛門尉近江判官
秀詮従五位下
生國近江
康安元年正廿九月和田楠兵部少輔正成
秀詮亦戰死

秀詮京師次郎左衛門尉依在國以兵千餘人馳向阻神崎橋護
防戰守護代吉田肥前房覚饲馬居馬和田楠遣下部
四五人於河面南方可支之旨呼之秀詮歟等泝河渡合
可戰兩方深田一道一面打之向神崎橋凡楠足輕野伏者
三百人渡左右深田沐矢射之馳懸中津川橋氏而白江源次戰死
馳懸和田楠橋本福塚五百餘兵
不渡追歟橋板一間引落之事是殘跡三百餘兵溺水流失死
秀詮亦戰死

氏詮
佐々木近江九郎次郎左衛門
生國近江
康安二年兄同所合戰死七

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

秀頼　佐々木左衛門尉
　　生国近江

秀宗　高橋四郎　左衛門尉
　　母上河寺藤原時綱女
　　於大和川水戦而戦死與高師直於和川水戦而戦死
　　号高橋

師直　高橋
　　和州水越軍戦死

高秀　京極四郎　従五位下侍所司　治部少輔　大膳大夫
　　母
　　嗣父道誉之遺領延文五年九廿三仁来三郎攻落中原城高秀退去
　　康安元年辛五為侍所司應安元年戊申十月為評定衆行
　　應安六年癸丑任大膳大夫明徳二年辛亥十月十七日卒於江州堅田而
　　戦死

高詮　京極四郎　兵衛尉
　　母
　　生於紀州　従五位上治部少輔侍所司

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

明徳二年壬未十二月賜又所領承久之御教書
司三年辛酉正月出雲隠岐両国賜之
應永五年戊寅十一月畠山基国任管領自是而後撰令為
細川斯波畠山三家為管領以山名赤松一色京極為侍
所頭人而職司是七家称是時補侍所司四六年京極
五郎左衛門高昌應鎌倉満兼之陰謀之企揚旗於関
是時奉命發兵伐之以明年十二出雲隠岐兵七千餘騎
京都加于高詮
嘉吉元年辛酉六月四戦死
于能仁寺敗

秀満　京極五郎　左兵衛尉　治部大輔　松雲公
高久　尼子六郎　左衛門尉
　　法尼子

秀益　八郎　左衛門尉　遠江守　号常路
高雅　佐々木九郎
満秀　多田十郎　左兵衛尉

高光　京極三郎　左衛門尉　従五位上侍所司　治部大輔
女

明徳三年壬申八月任左衛門尉
應永十八年辛卯九月賜飛騨判

高数　多賀九郎　四郎左衛門尉　加賀守

應永十八年辛卯九月飛騨合戰尺
木岡寺供養兄同隨共供奉

高忠　多賀九郎　豊後守
文明元年己丑五月加細川勝元方

女子　細川右京大夫持之室
如

持高　細京極三郎　従五位下　治部大輔
同
賜義持御一字叙従五位下

持重　京極四郎　従五位下　兵部大輔
賜義持御一字叙従五位下
先父而亡号興雲寺

持清　京極六郎　従四位上　中務大輔　大膳大夫　侍所司
為兄持高子
實高光三男

為兄持高子續家督
應仁乱以一万餘兵加細川勝元方後補侍所司領出雲
陽奴佐渡和泉等後剃髪号生観
号寶岳寺殿生観

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

勝秀　京極三郎　従五位下　中務大輔
　母
嘉吉三年癸亥賜義勝卿一字叙従五位下
應仁二年丁丑六月　先父卒

高清　京極中務少輔
應仁二年父勝秀卒時高清幼稚
其後為大陽大史政経之嗣継家督

政光　京極四郎　従五位下　壹岐守　治部大輔
　母　始為黒田備前守清高養子
應仁二年丁丑兄勝秀卒其子高清幼稚故政光為嗣継家

義政卿賜一字叙従五位下任壹岐守後治部大輔
文明　年
　卒

女子
　母
畠山尾張守政長室

政経
　母
為兄政光
嗣

政経　京極六郎　従五位下　治部大輔　大膳亮
　母　於經秀
實家

文明　年　為嗣
義政卿賜一字叙従五位下治部大輔後大膳亮
同十二年庚子加相伴衆延徳三年辛亥義種卿不可有

佐々木惣領職相違首賜判物
法名道器

高清　京極之郎　従五位下　中務大輔　大膳大夫　宇梅堂
　實勝秀男

政經卒無嗣故高清爲嗣子譲領而後住於江州坂田郡
伊吹山麓大平寺(城)
永正六年己巳剃髪而号梅堂築城於大平寺北於上平寺
号柏原城自先祖信綱寺領江北六郡領之居住焉
同十四年丁丑二十六卒年五十八葬於江州清滝寺
号瑞山寺殿梅堂宗意大居士
室上坂左近女

高峰　京極之郎　従五位下　大膳大夫　壹岐守　宇利甫
　母上坂氏
永正十四年丁丑二十九嗣父高清遺領居柏原城領六郡

泰舜　上坂左近　治部大輔　宇令演
　母同
為上坂治部大輔泰貞養子

高秀　京極之郎　従五位下　中務少輔　武蔵守
　母　始一氏

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

天文 年 嗣高峯之遺領領江州内郡
同十六年丁未七月義晴卿賜武蔵守名高秀
法名道也

某 京極隼人 守長松軒
高朝 京極刑部 刑部大輔
天文六年丁酉十九九年三十一
高常 号香集軒

高勝 京極三郎
母澤冕
生於江州
天文八年己亥四月六日
寺清瀧寺

高吉 京極四郎 従五位下 中務大輔 長門守
母佐々木近江守六角氏綱女壹子
生於江州
若年而出京都仕於義輝卿為近習別後謀叛高秀叢
居於大平寺城淺井下野守父子攻逆襲高吉之一旨領
元亀元年庚寅六月降於織田信長剃髪而号道安
天正九年辛巳正月九日卒去
号禅林寺殿道安

女子 下野
某 京極乙法師 備前守祐政
母織田左馬助敬宗室

天文十七年戊申十二月九日

高次　母　京極小法師　小兵衛　参議　従二位　若狭守

室浅井備前守長政女

慶長三年戊戌八月秀吉公賜近江國
蒲生郡内二千四十石餘高次卒而后号
常光院同十九年甲寅大坂役時
大神君之命勤有功城中和睦御使勤之其後
蒲生郡采地内三百石餘并於今洛南
宜秋郷寛永十年癸酉三百石於若州常光寺
寛永十年癸酉八月廿五日卒
葬地千四百四十石余
賜二千石高也

生於江州小谷。

天正元年癸酉七　織田信長賜江州南郡奥島秩五千石
同十二年甲申四月秀吉公賜江州高島郡田中郷二千五百石

同十三年乙酉七　叙任従五位上侍従号若狭守
同十四年丙戌於高島郡内加賜一信之所領
同十五年丁亥三月秀吉公発向於薩摩高次於豊前陣馬嶽
有軍功伐島津攻秀吉公賜美之同十年七月於高島郡大溝
加秩九賜二万石同十六年辛子四　叙従四位下同十八年庚寅於江州
八幡山領二万八千石文禄四年乙未於江州淀郡内賜六万石住
大津城同年任左近衛権少将同五年丙申四月叙従四位下参議
慶長五年庚子八月石田三成従乱時籠於大津城防止方勝為
為抽賞賜若狭国一国八万五千石餘移於小濱城
同六年辛丑於江州高島郡内加秩七千石九領九万二千石餘
同十四年己酉五二　於小濱城命幸年四十七
号泰雲寺殿道閑

室浅井備前守長政女

慶長三年戊戌八秀吉公賜江州井浦生郡内
二千四十石余高次卒去後号常光院
同十九年甲寅大坂役時　命勤御和睦

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 龍子

高知 宗柢 世後寺

女子

女子

武田孫八郎元明室 後為秀喜室
後号松丸殿 後壽院

氏家内膳正行廣室

杉木兵部少輔宣国室

御使至於大坂城中
後於江州蒲生郡内永田内有與三百石於
宇出川右大臣實秀々室三百石高附於
若州常光寺
寛永十年癸酉八 卒
永地千四百四十石日忠高所務之

忠高 熊若麿 若狭守 從四位下 左近衛少將
母浅井備前守長政女
室 台徳公姫君號初姫
寛永七年於江戸見永七年於江戸生年十八歳若州
宇有小名無量山傳通院
台徳公御一字号忠高拝領御刀花倉
與安陽院殿豊譽天清陽山大禪定
弟若狭守 同年五 叙從四位下 同九年正月十一日卒
同十四年正月五 嗣遺領若州濱
文禄二年癸生於江州
慶長五年庚子年十歳而領大坂城 同八年癸卯二 元服賜
台徳公御一字号忠高拝領御刀花倉 同十一年丙子三 叙位從位下侍從
十二月三千五百石同十九年壬寅大坂役供奉同廿年癸卯備前宗橋口
同年五七月出兵於鳥野口接戦敗敵得首三百六十級
寛永元年子冬加賜越前内二万千五百石九頭竹
判敕賀廊内二万千五百石九頭竹

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

十四万五千石 同二年内寅供奉上京 同年八月九 叙任従五位下
同九年壽賜御遺物銀
同十一年四月七大賜出雲隠岐両州領二十六万四千六百石余
居於雲州松江城 同十三年四月石州銀山及途中郡邑知多郡
四万石御預之 同十四年丁丑六十二卒 年四十五歳

高政 京極主馬
母
号安毛

女子
實氏家内膳正行廣女
實母京極長門守高士女

今出川右大臣宣季室

高和 京極小法師 刑部 刑部少輔
實同姓主馬高政男
實母家女房

宣藤壹大學頭藤原高次女

寛永十四年丁丑先忠高無子養育高和継為嗣子未達於
上聽 寺社奉行会議 以大法収出雲隠岐両州於播州揖西揖東
錺西三郡内而賜封六万石居於龍野 馬六万千五百十二石二計也
同十六年己卯十二月七叙従五位下改刑部少輔
同十八年辛巳正月桶町出火時罹中郡田禄矣
正保二年乙酉三月八参向 勅使菊亭前亜相 飛鳥井前亜相
為御馳走役 同年四月公卿参着於江戸同十四日登城
御對顔同十日参詣於増上寺同北音有

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

若君御元服也同廿八日御元服御加冠御能於御白書院而七五三剋享若狭守大澤右京亮今川刑部大輔土井遠江守内藤志摩守御給仕大澤兵部大輔同山兵衛尉大久保宮内大輔也同年五六御暇慶安二年三月五日為両傳美濃守御暇同年秋九月廿一日御移徙大納言公於中丸邸賀之献御燭臺銀三十五御手燭四十使者登城同四年辛卯四月二日於東叡山而就冠大猷公御法會讀經中與中川内膳正小出大和守金森長門守等勤勇番大法會早堂城同五年壬辰在所御暇同年秋九月廿一日御移徙御白書院而御禮献御太刀馬代被五疋同二年癸巳在所御暇同四年丁未参勤御禮明暦四年戊戌二月七轉播州姫路城

女子
妙家子

多賀宮内亮良

讃州豊田三野多度那阿弥陀足播州内揖保凡六郡六万四千五百石領也同年三六年謝之献御太刀金馬代小袖十領在所御暇於御白書院而拝覲賜御小袖十領百枚同十日万治二年己亥九朔参勤如例寛文十二年子九十二卒若年四十六

女子
妙

宗刑部大輔義真

女子
妙

菊亭右大臣公規室

京極小法師
母同

京極百助　備中守
高豊
母藤堂大學頭高虎女　元禄二年巳二月辛卯光林寺或龍光寺ニ養性院殿資山壽心大姉
　室松平土佐守豊昌女　延宝八年庚申六月廿一日卒廿五日葬山城国相寺或池影院殿観應夢幻大姉

再室酒井雅樂頭述肇女　元禄五年壬申正月廿五日卒廿七日葬江戸芝運院殿端仙貞壽大姉

明暦元年乙未生於江戸
寛文元年辛丑八月六日於御城初見献御太刀銀馬代
廿四日従二位行権大納言源朝臣綱吉卿宣下
十二月廿一日拝謝之献御太刀馬代金十枚
御禮献銀壱枚於

大夫之事献高和遺物刀（従書儀廣代金三十枚）
寛文四年甲辰四月五日賜領知　御朱印
野田邨于時四千石之地高賜之　慶長三年戊戌八月廿八日卒
蒲生郡内野田邨長田邨二千四十九石
去時書朝夕與之百石於菊亭大納言
常高寺隠地千四百四十九石賜之　延宝元年癸丑十二月廿六日卒
境内洛北僧堂右七軒之百石
寛文五年乙巳十二月廿二日總州與津邑不受吉施僧如覚日光頂上新建
法姓寺号等御預之
同十一年辛亥四月於上野而依
大猷公二十一回御忌大法會御執行公我右大臣參向於晃山寺
為御跡建役　同十二年壬子六十三碩播州横須大倉島西邑於
江州坂田郡内清瀧西芝祖永仁年令建立之墓地
一寺号霊通山清瀧寺徳源院天台也御遠忌也

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延宝四年卒四十九始在所御暇於御
銀百枚同五年乙巳五九一同姓頼母
返賜〻同九年辛酉四十独後家中
御免同年六廿六日松平越後守可
十一九海陸路次警衛送於伊豫州
息寿丸寛文三九一審提高次之後
豊後守堆四下總守傳〻以出於西人
御暇同二年十一廿一賜領知
同三年丙寅二月九日十二九二嫡姻御
大納言参向焉同五年巳丑三月傳
登城慰斗目半上下而献御盃菓子
元禄五年壬申三月傳憲柳原前大納言
同七年甲戌五十八辛丑年四十歳

女子
實諸堂和泉守高孚

石川昌寺　昌能

高房
京極頼母

實　妻
實母京極若狭守康高女
方知三千石為高合
延宝五年丁巳五廿　卒

女子
石川備中守總茂妻

女子
實京極頼母高房女
実母妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

基　京極仙六代
　母
　基　京極祐二郎
　母同高或
　業　京極松之助
　母同上
　女　松子伊豆守信祝室
　母酒井雅樂頭忠孝養子
　為酒井雅樂頭忠孝養子
　高通　京極壹岐守
　　於澄
　　内膳
　母家女房垣津氏女淳高或實
元禄七年甲戌六十八歳知一万石讃州多度郡多度津
同年六月九拝謝之献仙太刀金馬代壱万疋
　道靜　天明七年丁未　廿八辛亥年光林寺
　　寛保二年壬戌四十九歳卒麻布光林寺
同年五月三日
寛保二年壬戌四　為柳沼話宝永六年己丑三
月廿九日逼院殿宗翁道靜大居士
　室　宝暦四甲戌年道純女　天明七年丁未　廿八辛亥年光林寺
　　号長昭院殿寶林惠球大姉
　高慶　京極千吉　内膳　出羽守
　母松平志摩守直純女
　室
辛保二十年庚子九九四家督讃州多度郡多度津
同年十二月叙諸大夫改出羽守
寶暦六年申子二　卒
　高佳　京極　長之助
　母

高祖 京極元〻亜
妻

女子 京極宋女高門妻 未嫁死
嘗

某 京極左馬之進
某 京極宗五郎

京極輕二郎
妻

某 京極摂之助
高明 京極豊吉
某 京極定五郎

女子 伊達能登守村貫室 離縁
藤堂肥後守高峰妻 離縁

某 京極岩八

高文 京極内膳 壹岐守 致仕 圖書頭
（一云武）
妻黒田大和守直純女

宝暦六年申子五三 嗣遺領賜諸州多度郡二万石
明和六年己丑十二十八 叙諸大夫改壹岐守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

寛政八年寛七五致仕改圖書頭同年十六卒年四十四葬於
林布光林寺

治高幸 又八 松平筑前守
女 女
治高 為松平筑前守治之養子

高賢 京極秀松 内膳 壹岐守 致仕右京亮
女 女
家名改本氏

寛政八年寛七五家督諸州多度郡多度一万石
同九年十二十九叙諸大夫改壹岐守
天保四年登二万致仕名代嫡男刑部少輔
寛永二年寛生於江戸

女子 毛利美濃守高明室
女子 五島右膳亮運朗妻
女子 大島肥前守義徳妻
女子 大久保備中守忠詮妻

某 京極智之助父
某 京極好之助父

高琢 京極辰之亟 内膳 壹岐守
女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

堂上京極長門守高朗女

文政十二年庚寅九十五始　御目見献巻物二御太刀銀馬代
天保四年癸巳二八家督　許波閇而御老中列坐大久保加賀守伝ゟ
讃州多度郡多度津　領知高壱万五千石
二野郡内五郎二千百六十九石九斗九升三合
内田内膳正廻高新田内讃州多度津領三百七石四斗三合
備中守方ゟ知ゟ時得之　讃州多度津領三百七石四斗三合
三十九石八斗二升二合　寛永八年子御書上
新田也
御領二万五千四拾九石二斗五升二合也
同十五日　拝謝　家督ニ付御白書院御
同年四十四始在所御暇賜巻物三
献時服　同五年三月四　参勤御礼献巻物二御太刀銀馬代
同年十二月　叙諸大夫改壹岐守

高寶　京極寛之妹

女子　酒井出雲守忠恒室

女子 母

某 京極八十二郎 天 母同高或

西尾隠岐守忠高室

高或 子 京極縫殿 母酒井雅楽頭忠孝女 室伊達遠江守宗利女

享保十二年丁未三七卒葬京都光寺 号慶寿院殿仙嶺常彰大姉

若狭守

元禄五年壬生於江戸 誰次男 以為家嫡

同七年甲戌六十八日遺領仍幼年名代 藤堂佐渡守酒井下野守登城

賜讃岐国 刃傷地内二万石 配方於浄喜院高通

同年六七九拝謝之名代献御太刀馬代金七枚綿百把献銀二十枚於

大夫人亦高豊遺物刀脇前則重献之献新古今和歌集 世尊寺

大夫人同八年乙亥七十四於武州中野御大小屋得普請助造

同十五丁丑三十五功成賜時服十領

同十一年戊寅六五備後福山城在番国生年八十四歳士等到

福山城受取於杉平駿河守浅野土佐守城今在番馬
同十三年庚戌杉平下總守福山城拜領同年九月渡之
同十五年辛丑四十五始　御目見献御太刀馬代黄金御裕寿壱
為太刀銀馬代御禮矣
寛永二年乙丑十九叙諸侯改名狹守同北の口手前ニ而謝之献御太刀馬代
同五年戊辰四十四始在所御暇賜時服十領銀百枚
同十年癸酉五十四於京都而　新院御所　中宮御所御普請御手傳
同十一年甲戌五七二切成　御暇　幸以杉平代御手傳之指揮院参自
新免豹名南陽花菱御香一木銀合御手鑓剱誌集投書一帖
手領之同年十二十五勞助造賜時服十領銀十枚御太刀馬代
同十四年丁卯五月　新院御所御普請御手傳
白襲之御代賜於若狹守忠高自
大御臺島端午日御祐副之守獻之旨有御感意
為例世嗣献白御鶴出旧記於大久保加賀守矣
正徳二年壬辰四十九賜領令知　御普請矣同年五月就

歳有松三十三面御忌大法會青蓮院宮參向乌帥馳走役
享保二年丁酉九十二賜領如　御先例同四年己亥九月朝鮮人来聘於
駿州江尻宿馳走役
同九年甲辰六十二於在所而卒去年三十三歳

女子　猪子右大夫　妻　元禄十二年己卯十二六縁組

（始一定）高三　京極縫殿助　佐渡守
女子　母伊達遠江守宗利女
室松平伊豆守信祝女

享保三年戊成生於江戸
同九年甲辰二十二賜遺領讃州那珂郡九箇
於波間而御老中列坐水野和泉守傳之
同十一日手謝之以若代京極大膳亮献綿二十把御太刀御馬各二枚

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同十六年壬寅二月六日　御目見、献御太刀馬代金一枚、南
北大刀馬代金一枚、於
大納言公家士衆人ニ銀馬代御禮同年
同十七年己卯四月八日御寺居者於安藤對馬守邸
上意口伝渡寺家侍爲御留守居、御禮
登城之旨也、是指出ス侍爲御留守居
於江戸而年始御太刀馬代以名代使者献之時使者於年会着座
是先祖依本兵庫頭成頼ニ後用之旨委言上之有
台覽旧家牧斯有古實者　上意必刀爲御禮出於對馬守邸拝
謝之欲取寄之旨被仰於在所述對馬守辛故達於松平伊豆守
同年十二月十九日於伊豆守邸所謂二尊旗　修多羅院寿量一流
三カ条刀一腰　曹道鏡　附属本四卿高倉流　生安ト号　所持
四品　寛永乙卯二月依知恩院考向於天德寺而御馳走役
同十九年壬寅二月依知恩院考向於天德寺御馳走役
同年四十八始在所得暇賜巻物五銀二十枚自宅賜巻物二文

寛保二年壬戌十六開東荒川星川御普請助造
同三年癸亥四十始功被賜時服十着之
延享三年丙寅十二賜領知　御朱印
同五年戊辰五月朝鮮信使来聘於品川東海寺御馳走役
宝暦十一年辛巳十九一賜領知　御朱印
冬中朝鮮信使来聘於駿河吉原驛往来共爲御馳走役
同十三年癸未九廿六年五年四十六歳

女子

大久保山城守忠興
爲安藤對馬守信友妻

忠需

西尾安之助　主水正
妙寿子佐嗜氏
爲西尾隠岐守忠高養子

高綏 京極馬之助
母家女房澤田氏女

高迢 京極馬之助
母家女房澤田氏女

良安 多賀左門
母家女
為家臣多賀式部良貴養子

高克 京極喜七郎
母家女筒井氏女

高迢 京極虎五郎 中務少輔
實同姓馬之助高綏子
實母家女留場氏女
延宝三年卯寅生

宝暦四年甲戌四三媚養子同、年廿五始 御見被仰付刀馬代
銀一枚被物五疋献仰大刀馬代銀五枚被
大納言同年十二七叙諸大夫改中務少輔同十三年閏五月四年去年
十七歳於駿龍光寺受盡照院殿正嶽道智大居士

女子 板倉内膳正勝澄室

女子 遠山和泉守友清室 始養子高迢室
再嫁友清

高中 始高明 京極榮吉 能登守
母家女房諸本氏

室 秋元但馬守涼朝女

注 寛四年甲戌生
同十二年丙子冬六二馬嫡子同年十九日
五万石当百十二石於汝国而御先中列世松平左近将監傳く同日未申

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

年中朝鮮信使来聘於駿州吉原驛而御馳走役可勤之旨召
留守居者於杉平右近將監邸令書有傳ク
同年十二月拜謝進領座領献御太刀黄金三枚綿壱把御馬壱疋ヲ
献白金五枚於
大夫人御太刀馬代金三枚於
若君馬同十四年丁丑二於吉原而勤朝鮮人御馳走御用
明和三年丙戌二月川々御普請御手傳同年五月九日賜
時服十領土介有賜矣同七年庚寅閏六月朔日 御目見献御太刀
金馬代若干五疋亦献御太刀馬代金一枚家士両人拜禮矣
同年十二十六叙諸侯改能登守同廿日献御太刀馬代拜謝也
同九年壬辰四月二日在所御暇賜着物五銀北枚於御白書院ニ
御禮ヲ自宅賜着物
天明元年辛丑十月傳奏油小路前大納言為光卿ヨリ々御普請御手傳
為御馳走役同六年丙午十二月六日関東川々御普請御手傳
同七年丁未五月朔日被賜御袷十疋
同八年戊申三月賜領知 御朱印
家士等亦有賜矣

讃州豊田郡一円三十九邨一万千九百九十九石
三斗六升七合四勺四才
同多度郡内七邨三千九百八十三石
同州那珂郡内十九邨四千五百九十三石
播州揖東郡内六邨三千八百四十名
同揖西郡内二邨一千九百八十名
二州蒲生郡内二邨一千四百四十名
同坂田郡内二邨一千九百八十名
御知行帳五万千百十二石五斗
二万八千三百九十九石五斗二升七合
実収高新田共
讃州山田郡七千三百一斗六升四合
播州揖保郡七千三百一斗六升四合
内江州御知行所十七邨四千八百八斗八升三合

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

高教　京極　甘部
　甘家女　松島氏

高行　京極忠次郎　久
　甘家女太田氏

某　京極千吉　文
　甘同

某　京極友之助
　甘

高朗　京極源三郎　長門守
　甘

堂酒井備前守忠御女

文化八年未三九賜遺領讃州那珂郡九鬼城五万千五百十二石余
於波濤而御老中列坐青山下野守傳之
献御太刀金二枚綿二十把御馬鞍一匹
同十三年丙子十二月。叙諸大夫改長門守同廿二日拝謝之
文政十一年戊子四十五當二月五日夜出火於神田多町時消防令
出精乃違　上聽旨於御白書院猿頬而水野出羽守傳之
同年八月相州鎌倉鶴岡八幡宮其外再建御修復御用
可勤之旨於波濤而御老中列坐松平和泉守傳之
同十二年丑八十五功成登　城　御目見賜時服十領被労
之早退去矣同十七日家臣惣拝行京極右近賜時服三
銀二十枚羽織同拝行中村寛左衛門銀二十枚時服三羽織
元〆富澤九一郎同兼帯寺居鼓内記兵衛浅田新兵衛大目付
瀬山登等銀二十枚時服二羽織宛賜之旨於檜門而水野出羽守
傳旨仰奏者書渡之

女子
實田姓高中女
實母家女

遠山美濃守友壽室

女子
毋酒井備前守忠侫女

京極壹岐守高琢室

高泰
毋
京極

對馬守

岩松平義作守長訓女

宇多源氏

京極　本國近江　紋四目結　五七桐　十六葉　二引龍　雪齋

京極長門守高吉二男

高知　京極長壽　修理亮　従四位下侍従

好浅井下野守祐政女号常福院

継室毛利河内守秀政女
号智源院

室織田七兵衛信澄女
小谷ニ

元亀元年庚午生於江州小谷城
天正十二年甲申新規仕秀吉為侍従賜秩五百石
同十九年辛卯於江州蒲生郡而賜五千石同二年叙諸大夫
号修理亮　嘗毛利河内守秀政卒無嗣秀吉聞之有命
文祿二年癸巳十以高知為秀
後叙八万石同年十二月任従四位下侍従改修理大夫賜
羽柴氏同四年乙未四月加秩二万石并十万石

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

慶長五年庚子上杉景勝謀反不若為御征伐諸將
方神尾兵於野州中山時供奉進上方而石田小西發乱出来
大神尾出中山陣営向於上方帝御行馬次濃州岐阜城高知為後軍
自栩手忠攻而来取来城有
大神尾御感賜書関原合戦後大津城攻
誉火雖令知於大津城早十三日和睦成十五日巳刻大津城遅退矣
同年十月十六日賜卅後卅二万三千百七十石乃下卅後州
宮津城依一國一城命廃田邊城築
大坂両度役供奉
元和六年庚申八十二卒去年五十一
京師
御香典白金千枚
令下端泰院殿真叢道喜大禅定門建勧菴寺

女子
母家女
慶長五年庚子為證人到上州高崎

家臣
多賀大膳　妻大膳死後再嫁家臣
可兒権殿助友方

女子
母家女
笔利河内守秀政

八條智仁親王北方　智忠親王母
笔利河内守秀政女

高廣
京極来女　実女正　卅後守従四位下侍従
笔利河内守秀政女　号智源院建一寺於卅後州與佑卿
号松渓山智源寺

宮池田三左衛門尉輝政女
万治二年己亥六四卒

慶長四年己亥生於江州大津
同五年庚子石田三成小西行長起乱時與母俱籠於江州大津城
出徒大軍攻大津城家臣等防戦而敵
令和睦同十五日避城退去矣　父高知馳来而守城隠也
同二十年乙卯大坂役與父同供奉
元和二年丙辰十二　叙従五位下任侍従改孝女正

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

同六年戊九家督承嗣秩卅後地與佐倉津城七万八千五百石
外分知三万五千石於修理大夫高三
寛永二年乙丑改丹後守同三年丙寅上京同年八十九叙従四位下
同八年辛未五九四息女陽岐守嫡子松平河内守婚姻御禮献
御袷十拝謝之同年六二息女婚姻於長門守嫡子九鬼長大師
拝謝之献帷子十矢同九年壬申賜　御遺物銀二十枚矣
同十六年己亥八月依有
若君御誕生賀之献短刀行光使者謁於阿部豊後守老秋退去矣
正保二年乙酉閏五十七就今度手領八木依煩以名代宗極下總
拝謝之同年七九六以上使川勝卅波賜雲雀三十矣
同四年丁亥七四以上使御使番賜林檎矣
慶安元年戊子在所御暇同二年己丑参勤同三年庚寅依霊
御移従使者献御鉢五矣同四年辛卯四参勤
承應元年壬辰御暇同二年癸巳四十五参勤同年七二以上使
賜御鷹雲雀二十矣同年八十六依　御轉任御賀御能興行
公卿登　城見物之時献折一組矣同三年甲午正十二賜御鷹雁矣
同年甲午四九三隠居同年十二九八剃髪号安智軒道愚
寛文二年壬寅閏居於京都東山焉始嫡子家督卅後守高國
常行狀不宜對於父不孝也由是安智為訴於　朝告老中方
達　台聽高國所領没収被預于南部大膳大夫配于奥州南部
於是家令断絶焉安智軒在於東山菴宝而罹病
延寶五年丁巳四九一卒去年七十九葬于京瑞龍山南禅寺塔頭
天授菴号安智院殿前卅九天心道一大居士

女子　戊
卅池田三九衛門尉輝政女号長松院
松平陸岐守定頼室

女子　堀下問少進法印妻

於照山　高國　京極仙千代　山城守　井後守　従四位下侍従

同　室松平伊達　陸奥守正宗女

元和元年乙卯生於
寛永十一年甲戌十二月九叙従五位下改山城守同十二年七月
二拜領之献御太刀金馬代同二十年癸未十二月九叙従四位下
正保二年乙酉八月
若君御元服登　城献御太刀目録同年閏五月三依父井後守所労
如願在江戸老中傳　旨天同五年戊子閏正十二以　上使賜
御鷹雁矣同二乙年乙丑四月九在所御暇同三丙年庚寅五參勤御禮
除願之年參五大如願可詣旅日光山旨阿部豊後守傳之同十
發江戸同十旨到日光山參詣旨命同二年乙卯參勤同年四月
十日後國宮津城地七万石同北谷拜謝之献御太刀目録
御鳥於御黒書院而御禮次家臣諸合五枚澤圖書伊木七郎
右衛門中江民部以御太刀銀馬代御禮干而退去矣
同年十二月八任侍從改井後守同四年乙未二六拜謝之於御黒
書院而御禮献御太刀金馬代時服十矣
高國常明願之年丁酉四在所御暇同四年戊戌四十六參勤
上使阿部豊後守正秋来勞旅矣
參勤御禮献御太刀御馬
万治二年己未四十四以　上使稲葉美濃守正則在所御暇賜銀二百枚
時服二十同十五日登　城於御黒書院而御禮賜御馬矣
同三年庚子參勤御禮　城於御白書院
上使等如例有獻品矣

高國常不行狀而對父安智不孝非可治國家罪重罪犯悉
告老中訴於　朝乃有衆議達於
寛文六年卑五三朝招高國同橘
邸定直命　旨同道而出於許定所
許定所而老中列坐大目付御目付其外諸職出座達高國不行訴
對父安智不孝事　旨聽出是州後州宮津城地没收被預於南部
大膳大夫賜月俸三千俵家臣五人
同七年五十　命宮津城受取家從令雖散去
延寶二年六十二北面於配所而卒法名
芳春院
号湖龍院殿靜山宗光

高治　京極下總守　下總守
　　　

國晴 京極兵庫 女子

延宝七年庚未九十三
同姓信濃守高勝子

某 京極右京 号国枩右京

女子 妻女房照安田正即女
住於隨心院宮附国枩氏

某 京極庄之助

女子

住鷹司殿

高勝 京極左近 信濃守

女子

元和七年辛酉生於丹後州田辺
泳應二年丙子始拜
明暦元年乙未十二月九叙諸大夫改信濃守
寛文六年丙午五月山城守配流時逼
同七年丁未十二月六新規賜五千俵為
天和二年壬戌二月廿六十三
宁高勝院殿前信州道空日照大居士

高美 始國彭 京極采女 内匠 志摩守

妻女房

延宝五年丁巳依病謝居
元禄十三年庚辰二月五九年五十三

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

高信　京極弁之助　内記
　母　毛利局幸就隆女
延寛元年三月八日始詣　上献弥太刀銀馬代
同五年十二月七年未六四死年二十九葬谷中瑞林寺
号妙天院殿道理日明居士

女子　次
　母同
某　京極三五郎
　母某女
京極兵庫
國晴　童名但馬守高信子
延宝七年未九十三為着子同八年癸亥二十九始　伊賀見敏弥太刀
銀馬代　天和二年壬戌又辛酉不他遷跡
元禄六年癸酉四十七死葬谷中瑞林寺号高房院殿道室日安居士

高令　京極某女　内匠
　母某女
天和二年壬戌七月祖父信濃守跡目五千俵為寄合
同年八月二進目御礼献太刀馬代金三枚
元禄三年庚午十一月三為相国番同
同十七年甲申改寄合二加番
同十三年庚辰二月六死年　葬瑞林寺
号如幼院殿道夢日覚大居士
妻伊達宮内少輔宗純女

某　京極某女
　母伊達宮内少輔宗純女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

元禄十年丁丑七廿五又一年二帝端林寺

高平　京極仁十郎

女子　無子廿五絶

女子　阿部伊賀守正鷹室

為尼　法名為巴部世菩提寺

為尼　本平院妙寺道春尼

女子　九鬼大隅守隆常室

某　高島源五郎　妙泰女

寛文六年丙午配居於京都以為生計愛子家貧恵許嫁之

某　京極小四郎　出羽守家女

寛永七年庚午生

詠應元年辛巳五月七十三死年二十三

高規　京極兵勝丸　宋女近江守對馬守　政住道誉

女杉孝信室　陸奥守正宗女

孫應四年乙未正廿八於御里書院而始　御目見献御太刀金馬代時服
十矣明暦二年丙酉十二廿七叙従四位下改近江守於御白書院頒
老中列坐傳之同四年戊戌二五辞謝之献御太刀金馬代
寛文六年丙午五二叙高國侍頼孝朝臣高頼亦被頒於縁堂侍頼
酬於伊勢國安濃津城主相村作兵衛次下九人皆従下献矣
延宝八年庚申九廿五薨　御赦免
天和二年壬戌二三嫡嗣故引取杉孝陸奥守高房於常州
龍崎或至鎌倉矣元禄二年己巳十八廿五初　召出賜年俸二千俵為
嘗合同四年辛未正五於　御目見献御太刀銀馬代
同八年乙亥十二十五為高家列同十六日侍従改對馬守
九年丙子四二為晃十七日　御名代代吉於芙蓉間而御老中列坐傳之
同年九三為日光十七日　御名代於芙蓉間而御老中列坐傳之

山城守傳之同五日御暇賜金三枚時服二同十七日　御名代諸於
御宮即日發日光同廿日帰府於　御座間而御禮矣同十年丁丑四二
為日光十七日　御名代於芙蓉間而御老中列坐傳之
同九日御坐間而日光御暇賜金五枚時服二同廿日帰府御禮矣
同十一年戊寅正二為伊勢　御名代於芙蓉間而御老中列坐傳之
山城守傳之同十一日御暇賜金十枚時服二領同年二十三
帰府御禮矣同年九二為日光十旨　御名代同十二年己卯閏九十
賜御牧白金二百五十枚矣同年十二廿五来辰年御法會掛下勤旨
阿部豊後守傳之同引吉良上野介畠山下總守永同然矣
同十三年庚辰二十五日光御法會御用御暇賜時服五羽織
同廿七日日光御法會早帰府同十年辛巳二為日光十七旨
御名代於芙蓉間而御老中列坐小笠原
同年四二日光十七日　御名代於芙蓉間而御老中
依渡守傳之同年五十八来月五日御宗門院宮二十五回御忌大法會　御宗都御使於芙蓉間而御老中

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

光中列坐秋元但馬守傳之同十九日於
十五枚時服三羽織為
宝永二年乙酉七月五日病卒同三年八月改道遊
同五年戊子十一月十九日卒去年
号彰徳院殿法山道遊大居士
葬谷中感応寺

高武 ― 女 ― 落合孝之助

女 ― 某 黒田万吉 寛文二年壬寅生
母家女 同六年丙午死備前州巴山
為松平伊勢守陸奥守国知墓養子

女 ― 某 立花主膳正 宝
母家女

女 ― 某 京極 之助
母家女

女子 頼就松平陸奥守綱豊

始高武 ― 高南 京極壮之助守落合 改京極大膳大夫 従位下侍従
寛文二年壬寅生
同六年丙午死伊豫守智嶋

実高国三男
実母家女房

寛文二年壬寅生江戸
為嗣落合内蔵助養子落合孝之助親信同六年丙午五三又
同年別旅館延宝八年庚申 御赦免
元禄十二年歳十二七為養子
宝永二年乙酉十二月九日 御加恩弐千石内千五百石分知五百石於弟寺嶋
内蔵助於芝増上寺御法事列坐稲葉丹後守傳之為表高家

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

同三年卒 母平田氏智御禮獻御太刀金馬代
同四年丁亥十二月十五日 高家列叙従五位下但侍従改大膳亮
同
正徳元年辛卯十一月六日 朝鮮三使逗留中為御尋明日 上使下向之事
同二年壬辰正二為伊勢 御名代
同三年癸巳正二為日光 御名代 於芙蓉間而御老中列座戸田
享保二年丁酉五月朔為伊勢 御名代
山城守傳之同四年己亥正二為日光十七日 御名代 於芙蓉間而御老中列座戸田
水野和泉守傳之同十年乙巳十月七日御暇賜金被寺脇二同日拝領
同九年甲辰九二為日光十七日 御名代 於芙蓉間而御老中列座井上河内守
平九近将監傳之 御暇賜金十枚時服三領
同十年乙巳正二為伊勢 御名代
傳之同七年九二為日光十七日 御名代 於芙蓉間而御老中列座戸田山城守
水野和泉守傳之同十年乙巳十月七日 御暇賜金被寺脇二同日拝領
同九年甲辰九二為日光十七日 御名代 於芙蓉間而御老中列座

宝永七年庚寅十六歳養子
享保十年乙巳十二月二日卒
同十四年己酉六月九日
与善之院殿末座孤之得左右居士

女子
卅

養子 市十郎 高岡 寿

高英 京極一學
寛之花主膳正橿助壹岐守
寛女
寿養父市十郎高岡男

享保十四年己酉九月二日卒
同廿年乙卯六月四日
同四年己未六月七日
寛保二年壬戌七月病許

高岡 寿

高岡 寿

高岡 寿

近衛ニ従ヒ出征
宝暦十二年七月廿四日為賀養子明和二年四月廿四日家督百石於
筒井而得老中列坐阿部伊予守
同五年六月十二日廿四為免御暇被仰付奉公永勤ニ而
傳ヶ安永四年ニ未閏十二月仰渡為寄合
詰ニ傳ヶ

高
宗極左膳
母同 姉一人 女

高朝
寺島 子宗極藤之助
母同

寛政二年
五百石 外ニ百七十石 六年ニ外ニ百五十石 九年ニ外ニ百七十石
同朝事御免ニ而 寄合ニ為
御番入 広敷番頭ニ被仰付 百七十石

高
寺島松之助
母同

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子
昌

帝桓雄大帝

女

妻 鏡栄神前井浦助 女

高本 京極寅助 四郎左衛門 近江守 従四位下 侍従

妾女

元禄六年 至百姓 於江戸

享保十四年己酉八三歳日于五百石於菊間而御老中列座水野和泉守
傳之為表高家
寛保二年壬戌十十五為高家列叙任從五位下侍從于近江守
延享四年丁卯七十七叙從四位下依京都受禅伴讓位賀使也
寛延元年戊辰十二十 告病辞為雁間席
宝暦八年戊寅三廿八卒年六十六葬于清淨院殿四位侍從前江州行信實圓大居士

氏應　北條新藏　為北條安房守養子
母同

高

京極万五郎　四郎左衛門尉
實牧野播磨守忠列二男
實母

妻養父高李女

寛保二年壬戌三九無嗣為婚養子延享元年甲子三廿二始
御目見献御太刀銀馬代
宝暦五年乙卯九十四仍病身隠嗣子

養子高　孝

享保十六年辛亥七廿一元安應寺
于四光院殿居士　知清事

女子
女子
女子　母同

高厚　京極兵勝　大膳
母同姉延享高李女

妻池田信濃守政方女

宝暦五年乙亥九十四為祖父追福称進
同八年戊寅六　歳目千五百石於菊陽御老中列坐
為表高家
天明元年辛丑五六九年　寛政應寺
于正行院殿義山道照大居士

以
高超　宗桓兵勝　近江守　従五位下侍従
　女池田信乃守政方女
生於江戸

天明元年辛丑七八歳目千五百石於菊陽御老中列坐松子名京妻、
傳之　名代倉橋
三九ノ者嗣為表高家同年八六歳目御暇仰出次使者献御太刀
銀馬代
文化　年
同五年戊辰九十九年　為高家列叙従五位下任侍従改近江守
号興譲院殿従五位下前近州峻徳晴義大居士　寛政應寺
道保　永井久次郎　久左衛門　為永井久五郎　養子
　女

高正　宗桓　宋女
　女

文化五年戊辰十二　歳目千五百石於菊陽御老中列坐
為表高家

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子
母

文化六年巳三月二十二日卒歳僧等
于浚光院雲悟著笑大童子

高福
母

京極兵庫助
母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

高三 京極六九 修理亮
母家女竹原五郎左衛門 女
室水野隼人正忠清女

慶長七壬寅生
同十六辛亥正 叙諸大夫
元和八壬戌九 分知二万五千石丹後
寛永九壬申三 賜 御遺物銀三百枚
同十三丙子九十三卒去年三十五歳菩提寺
号思泰院殿前亜相雲山道徹大禅定門

高直 京極六九 飛騨守
母水野隼人正忠清女
室水野監物忠善女

寛永九年七月生旅宿
同十二年卒十二 葬遺領三万五千石
正保二乙酉七月十二廿九叙諸大夫改飛騨守
寛文二年卒廿七年三十三歳 家士伊庭左京 帆擊左京
石塚主殿 伊庭儀殿水原傳兵衛
葬于端泰寺号法性院殿前使君勇卿道保大禅定門

高友 田中三右衛門

女子 牧野内膳正成宣

女子 六卿伊賀守政晴室

女子 安高知女

童形 宗桓

寛文十年卒廿五 賜遺領三万石外石知二千石於弥兵部
高門同年十二廿八叙諸大夫改伊勢守同四年丁辰正七拝謝之次参内頒之
同八年戊申五九八轉丗任刑部少輔 但馬州豊岡領知如元文
但馬城崎二万石多養父郡合内頒之
延寶二年甲寅三十八隠居 宝永六年己丑二月辛丑年六十壽于
端泰寺号陽林院殿前勅刑史照山道卿大居士

高盛 京極六九 伊勢守 葬于端泰寺
母水野出羽守忠善子

女子 母同高盛 夭

高元 京極主税 母

伯耆守 長武宣

始一明
高門　京極兵部
　母同

寛文七年従五位下知二千石丗従加任即内焉旨合
同八年改丗五九一兄高盛所領若故高門亦若知行於但馬養父
義合内

高里　京極能之助民部圖書
　寛永
　依病戻宣家

高完　京極永馬
　母家女

　為同姓甲斐守高住養子

女子
　為同姓甲斐守高住養女

女子二人
　為同姓甲斐守高住養女

高為　京極大學　兵部
　母

　毒同姓主計高久女
　享保六年丙丑十二綴組

兄弟　羊　跡目二千石於當門而御免申渡
　為等合宝永六年己丑十二月十三日　御目見被仰付御小刀銀馬代
　享保十七年子七十五石　幷於書山

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

号亮光院殿大質道玉大居士

高童 京極八之助 兵部 伊豫守
（始一味一主）

実稲垣内記昭為二男
実母 島津八郎左衛門久利女

妻池田信濃守輝政方養女
実池田藏部 女

延享三年丙寅三月二日縁組
安永九年庚子二十二歳再嫁
号観了院殿憲善造大姉

享保四年己亥生於江戸
同十七年壬子九二歳目二千石於菊間而御老中列座酒井讃岐守傳
為嘗合同年十二六婚目御禮献御太刀銀馬代
延享二年乙丑九十三為御小性組入世長門守廻
実池田藏部 女
延享三年丙寅三月二日縁組
安永九年庚子二十二歳再嫁
号観了院殿憲善造大姉

小出信濃守傳之宗家五万三千石之内
同八年癸卯寅七十八為西丸御目見明和元年甲申十二六為御小性組
同四年丁亥十二月二大坂御定番頭
奉行同年六月御暇叙諸大夫改伊豫守
同四年未三月為大坂町奉行
同五年己丑八月七辛年六十七歳同寺
于廣徳院殿往生前菊間大名道玉天外大居士

高燭 京極八之助

妻 池田信濃守政方養女
実 牧野伊勢守

安永四年乙未 女

天明五年乙巳十二五歳

部屋住為御小性組
安永四年乙未十二五歳
同日二千石於菊間而御老中列座

王殿頭傳之同年十二月拜謝之歟御太刀銀馬代
寺和七年癸亥二帆廿病篤為本尊修法宝祚延寿
下

女子　毋羽五左門長裕妻

女子　毋同高嫡　稲垣八十五郎　毋同　昭

女子　毋同　前田教高之継室　普

女子　毋同　岡部内記　妻

女子　毋同　稲垣八十五郎　妻

女子　毋同　前田教高之継室　普

女子　御醫師　塩田宗信保定妻

高貞　京極万吉　大学

寛神原右京亮政永七男

寛女家女房

母養父高燭女

寺和二年癸亥十一月五家督於菊間御老中列座
傳之為小普請組支配支配寺社
二千石　但内三十人分七千俵御加高
百分千石二千俵
養父卿内前々苑　但此養父卿江無地蔵不足四百北三石八斗
所高　二千俵十九石二斗　岡美濃守七男　元禄十五年

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子

女子

京極八十
女子

養子高豐妻

高往
女子

為兄高盛
養子

某

京極万里之助
女子

高里

京極奥之助 民部 圖書
女子

為兄兵部高門養子往仆病床室ニ入

高往

京極土肥之助
實同姓高直四男
實母水野監物忠善女

甲斐文守

寛文元年辛丑生於江戸
同七年丁未八北九為養子同年九五始　御目見
延宝二年甲寅三十八家督三万五千石
同三年十二北七　叙諸大夫改甲斐守
同九年辛酉六北五松平越後守家臣治左衛門子安藤次郎兵衛
御預之
貞享五年戊辰四朔朱三旨御配可拝見之旨同三日着獎斗目半袴
上下登　城獻御脇一種并見御能　御氷室其外見物乎退去史
宝永五年戊子五十四　仙洞　女院御所御普請御手傳馬
同六年己丑六六御普請可賜旨同十日依松平紀伊守指揮翌
十二旨出家士於庭田前大納言亭　仙洞御所　宣命之趣
梅小路中納言傳之賜　勅製御薫物二品和歌三部被矣
同年十二十五依召登　叛梵京都御普請賜時服十家士
等亦賜時服白金矣　正徳四年甲午七北九致仕
享保十五年庚戌六十三年去年七十歳　葬瑞泰寺

号興國寺殿普門院前甲牧大雲道瑞老居士

高槩　京極修理　加賀守

妻家女房

室松平越中守定重女

元禄二年庚午生於江戸
寛永元年甲申九十五始　御目見
正徳四年甲午七北九家督三万五千石外分知合力米二千俵宛
水野左衛門善興同年十二十八叙諸大夫改加賀守
享保二年丁酉二十一旨向　勅使御馳走役於帝鑑間而御老中列坐
水野和泉守傳之同年三五公家衆褒　御對顔十一日御服
同六年辛丑六十二年去年三十二　寺僧等皆具衆九向柳営御上納
賜糀町天神前五千四百八坪

高正　京極竜之助

妻　女

善興　水野九衛門
　廿
正徳四年甲午七九賜内方二千俵為菅谷同年八十一拝謝之
享保十一年丙午本家京極土肥之助早世大吉賜新知時大吉高内
二千俵内方如元延享二年乙丑九十三為御小性組久世長門守
同四年丁卯二六歿年

高明　水野飛之助　改本名京極二左衛門
　廿
　寿　花房近江守
延享四年丁卯五三跡目二千俵於菊間帳老中列坐多伯老守
傳之為小普請組長谷川久三郎支配
宝暦八年戊寅四廿七歿

高　京極吉左衛門　号甘貫斎
　廿
宝暦三年癸酉十一十七如願改京極本多伯老守傳之
同十二年壬午三十六為西丸御書院番戸田豊前守組
明和七年庚寅賜深川御船倉後渡吉三郎上地六百十二坪
鳥居伊賀守傳之安永八年己亥十一廿一歿

高凌　京極九衛門
　廿
安永八年己亥十二廿六跡目二千俵於菊間帳老中列坐松平周防守
傳之為小普請組小田切喜兵衛支配
天明八年戊申十二廿七歿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子
早世

浅井吉十郎元　妻　生女子二人

高嫡
早世

京極勇次郎　存先
養子

高嫡
寛永

京極勇次郎

妻水野筑前守勝義女

寛政元年己酉三月廿二日依
儀之為上書猶任由式部少輔

従四位侍従中務少輔牧野備後守

女子 京極甚帯刀高壽妻
實同姓圖書高里女
實母

女子 家臣 石束源五兵衛學明遠妻
實京極圖書高豐女

女子 家臣 坂本圖右衛門守休妻
實京極圖書高里女

女子
母松平越中守定重女

高寛 京極土肥之助
母同

享保二年丁酉生於江戸
同六年辛丑八月賜遺領三万五千石 出羽守傳之 代宗秩正四位下侍従
登城同年九月謁拜謝之以若代京極左馬頭献金十枚時服六襲
同十一年丙午九月十二日卒年十歳

高永 黒田大吉
母同女

為兄土肥之助高寛
名跡

高永 黒田大吉 京極修理 甲斐文守
實高葉二男

室細川山城守興生女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

享保六年辛丑生
同十七年壬申九十二土肥之助高
同十年九十八孝喜永同十九日高
登城土肥之助幼女而果跡目不
雖然高永以為寛宥新規賜
尤衛門吉於波門而御老中列坐
大吉与京極修理同年十十六叙諸大夫改甲斐文寺
秋紋綾二巻御太刀銀馬代
同二十七年七廿八始御目見同
宝暦十年庚辰八十二辛未年四十
与霊端院殿前甲州刺史新豊萃谷道淳大居士

京極六左　修理　甲斐守

高品　女細川山城守興生女
　　宣加納遠江守久堅女
寛保元年辛酉生於江戸

某　多田勝十郎　女子

戒壽　坂部錢松　舎人　女子

永武　京極元吉　玄蕃　女子

女子

石川勘兵衛武寿

宝暦十年庚辰十八叙従五位下
同十一年辛巳九十五始　御目見同
寛政二年庚戌五十二致仕

為坂部左京門五万石
養子

宝暦七年丁丑七廿五天麟院泰寿
与天凉院殿秋月露光大禅定

女子
母同

女子
母家女

女子
母同

女子
母同

高大　京極左近
母同

高大　京極左近
妻同

鳥居權之助　忠洪妻　縁組離縁
母大澤下野守基季妻

明和元年甲申十一月七日卒端泰寺
号映地院殿容顔榮相大童女

明和二年乙酉十二月六日卒同寺
号環光院殿智含寶明大童子

鳥毛高品養子
依病身治

大久保吉十郎忠壽妻　離縁忠壽死

病遁身

高右　京極錦之助　加賀守
妻同姓備中守高久二男
實母

飛驒守

寛政二年庚戌二十為養子同年五十一家督二万五千石同年十二十一叙諸大夫改加賀守
文政九年戌寅改飛騨守
天保二年辛卯五　致仕

實母

寛政二年庚戌二十始　御目見獻巻物二腰馬代
同年五十一家督二万五千石同年十二十一叙諸大夫改加賀守
文政九年戌寅改飛騨守
天保二年辛卯五　致仕
同年五十五日祥謝之

高行　京極六九　修理大夫　甲斐守
母

生於江戸

壹本多弾正少弼忠知女

文化八年辛未十二月始　御目見献巻物二御太刀銀馬代
天保二年辛卯五　幕府被仰出候御老中列座
柳間席同年十二月十六叙諸大夫改申渡寺
但馬國城崎郡内二十郡一万三百九石同二万郡内廿六郡四万
凡二万五千石　外四千六百四石弐斗余
同四年癸巳二月為嘗秋大祝加番於柳間御老中列並松平周防守
傳之同年七月御暇賜時服四領

子
昌

高篤　島田錦之助
為島田藤十郎嗣

養子

某
母同
為證人来江戸二成而夭

高通
京極主膳
實朽木兵部少輔宣綱三男
實母京極長門守高吉女
室養父母後母高知女

慶長九年甲辰生於江州
同十七年壬子九為證人出於江戸始拜
台徳公乃為御近習賜千俵大坂両度役供奉元和元年乙卯十二 叙諸大夫
改主膳正同二年丙辰賜武州埼玉郡二百卅 石總州猿島郡七百六十
江州蒲生郡二千石元三千石也年俸千俵上納焉
同三年己巳為御小性同八年癸酉知二万石併二万三千百四十石并後

岸山為居所為同九年壬申十二 叙諸大夫改主膳正
寛永九年壬申賜 御遺物白縮
同十八年己酉正 机桶可出火時催類火先焼七矣
正保二年乙酉六十在所御暇賜時服四羽織於御白書院椽頬而
御供者奉渡之同三年丙戌六月参勤
慶安二年己丑六十御暇賜時服四羽織次
同三年庚寅六月参勤
同四年辛卯御暇承應元年壬辰参勤
明暦二年丙申六 御暇同四年戊戌六月参勤
歟御太刀馬代万治二年己亥御暇同三年庚子参勤
寛文四年甲辰十二十四於江州水口在番而卒去年六十二
于安養院殿雪峰道山大居士

京極丹後守室
浅井内膳正長好妻

女子
女子
女子

羽柴長十

室

女子　京極田後守室　落合淡路守重寿

始満吉　高盛　京極辰氏　源之助　田中式部　三左衛門

女子　女家女名等矣庫　室極家臣　女子　室性院延宝二年甲寅十八死寿　法名浄泉院殿　妙布教江寺守室性院殿　室寛妙蔵大姉

寿織田

元和九年癸亥
寛永四年丁卯生於井後與兄高廣相性不宜以与田中氏
同寛永十二年乙亥仕八新規被召賜知行千石為文代衆並
正保三年丙戌十二月為御書院番水野石見守組
万治二年己亥八月十日為御使番寛文元年辛丑六月
川中島御目付同二年壬寅六十四野州日光在番時洪水溺死年
四十歳
号端峰院殿慈室道圓居士

女子　氏家左京行久妻

女子　有馬左門　室極田後守臣　石束出雲　始一角　妻

女子　某　京極高丸　為

女子　為兄高三着女　京極田後守臣　山名崎豊後　寿

女子　京極田後守臣　澤圓書　良政妻

女子　同　渋谷主税助親勝妻

女子　島田淡路守時之妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

高頼　田中作兵衛
　　中織田

寛文二年壬寅十二九歳月十日為小普請北條左近大夫組
同六年丙午十二三ノ御書院番戸田相模守組
延寶三乙卯年四十一為小十人頭
天和二年壬戌三廿九為御使番
貞享三年丙寅閏三五仍病辞為
寄合元禄八年乙亥七九致仕
享保十五年庚戌九十三元年
于鷲林院殿雪山道茂大居士

某　嘉暦
甲斐源家　島田淡路守時之女

女子　寛文十二年壬子六月九一九
于高峰享月

畠山民部大輔　基春毒

高久　田中式部　改本氏京極
母島田淡路守時之女

寛文十年庚戌九四始　御見元禄八年乙亥七九毒智子石
同年六拝謝之献御太刀金為代同十年丁丑三十八為御書院番頭
卅徳寺組同十二年己卯十九四為小事場奉行同十二年己卯閏九十賜
御救金百両同十六年癸未正九二十錦引渡御用剛放中山勘解由
同七年二十五御暇賜金二枚同年三九二廿御禮矣
宝永二年乙酉正十五為松平豊前守組御書院番頭
正徳二年辰八仍組打出九門伴通塞於旅野監物邸傷之後　御免
享保十二年丁未四九八為御先手御鉄炮頭同十七年壬子十六九
并吸江寺于開龍院殿月窗恵山大居士

女子　母同　竹村　新御番組以　松下半六郎之則女

嘉隆毒　寺保二年丁酉十六九廿五国寺
于桂光院殿妙月日晴大姉

高壽　京極　帯刀
母松下半六郎之則女

宝永六年己丑四六朔日生　讃岐守組頭井上
享保十四年己酉十八九

女子 妙昭

高倩 妙 京極 主計 京極安部高為妻 主保元年正十二線

女子 妙 素家女 京極主計 辻 幸水久維妻

高兵 妙 京極欽之丞

高貞 京極傳之助 實 女子 篠山往宇賀明妻

生於伊予
天明元年辛丑四五家督于石於筥間而御老中列坐松平周防守
傳之為小普請組水野大膳又配同四年甲辰正廿一組目御雇兩氣設
銀鳥代 辻九 同三年癸卯八九年 等於攻治
于勝善院殿谷山道最大居士 寺

永元年申四八廿吹江寺
于寺神亭之手

宝永元年甲申四八廿吹江寺

女子 京極安部高為妻 主保元年正十二線

高倩 妙 京極主計 寿

女子 妙 素家女 辻 幸水久維妻 孝宝

主保元年正十七歳目于石於筥間而御老中列坐松平左近将監
傳之為小普請組水野大膳又配同三年四月六日延享三年四月六日御書院番
皆川淡路守組同三年四月六日延享三年四月六日御書院番
水野出羽守組同三年四月六日延享三年四月六日御書院番
安部伊予守組同三年四月六日延享三年四月六日御書院番
寛政元年五月廿日為小普請
与徳淵院殿右山道最大居士

宝暦二年申十月四九廿吹江寺
于恵明院殿智光日自大姉

千石 内二百九十六石六斗小物成高入
外三百八石四斗四合 込高
同州羅馬郡二邨三百四十石九斗四合多胡郡二邨三百八十石四斗

女子
母同

柳生飛騨守宗冬室
正保四年丁亥九廿八緣組
延宝八年庚申九七卯年五十三
号正光院

高昌
母同姓井後守高智
妻 御旗小倉左馬正守女

京極右衛門太郎 伊織

寛永十年癸酉生於江戸
慶安三年庚寅九三新規為御小姓組本多正侃守組賜三百俵
寛文六年丙午六十四月知千石同廿三日拝謝之
延寶八年庚申三十一九年四十八
号梅林院殿日道領善居士

高沖
京極 熊之助 伊織

寛同姓左門高成男
實母織田主計頭貞置女

延寶元年癸丑江戸
同八年庚申九七跡目千石為小普請
天和三年癸亥二十八始 御禮御太刀銀馬代
元禄十二年戊寅三十九為御書院番新左長門守組
宝永五年戊子正九病辞為小普請入貞因幡守組
享保十三年戊申十九致仕 寛延元年戊辰十二八死年七十六
号

高庭
京極右衛門 織部 致仕甫雪
女

享保十三年戊申十九家督千石
傳之為小普請入留島敦馬守組同年十二七拝謝之獻御太刀銀馬代
孝京極齊宮高方女

同十六年辛亥三五為御書院番高木伊勢守組
宝暦十一年辛巳五二告老辞跡金二枚酒井左衛門尉傳之為
十善詰組妻本平四郎女配同十二年壬午十月二致仕号稽雪
安永八年己亥正月二九年

某
京極熊之丞
母京極周宮高方女
小倉忠右衛門
母

正
母

高昌
京極伊織
母
生於江戸

元文三年戊午八月二十六日
為小倉喜右衛門養子

元文三年戊午九月五為惣領肯孝多伊豫守傳之
宝暦十二年壬午十九二家招千石於蔕而御老中列坐井上
河内守傳之為小普請組妻本平四郎女配
同十三年癸未七十八為御書院番稲葉紀伊守組
明和三年丙戌十二十二九年

高久
京極千之助
母
享保十四年己酉十一五為孝家主膳正高長嫡養子
右近
主殿
備後守

直賢
大岡権之助
母孝女
享保十四年己酉十一五為孝家主膳正高長嫡養子
宝暦五年乙卯四十五為讃岐守大岡
次郎兵衛直佳智養子

息豊
瀬名孫助
母
為瀬名孫助息頭
智養子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子

女子　御使番　藤澤兼人　輔長妻

女子　御書院番　鳥居三左衛門　妻

女子　御小性組　今村荒次郎　妻

富郷　池田内記　妻

高岡　京極宰女　妻

明和四年丁亥三十一歳日子名於岡而御老中松平周防守傳之為小普請組松平頼母養子

天明二年壬寅二月廿七日卒

子二為而丸御小性組大鳥肥前守組之也大和守傳之

天明元年辛丑七十三元服善立寺

子心淨院殿妙田日鏡信女

為池田養子

高宗　京極剛次郎　嘗

同八年戊申十一月廿九日卒

女子　為高岡養子

高宗　京極剛次郎　實子

天明八年戊申十二月七歳日子名為小普請組勝四郎安觀守之配

寛政三年辛亥七月五日卒

高衷　京極八十吉

實俊卿藤澤安人輔長二男
實女京極甫高庭女
妻養父高宗春子

寛政三年壬亥十
勝四郎謁拜子龍
千石無上物奥江州蒲生郡之邑八百石武州騎兵隊頭

女子
實妹

養子高喜　妻

女子
母同

加州孫八男
村上小七郎 正直妻

高成
母菖蒲
京極左門

寿織田主計頭貞置女
寛永廿一年甲申生於卅後卅
御目見同六年丙午六十四石知五百石
寛文二年壬寅十二十一始得
為菩台同十二年十二三為御書院番酒井伊豫守組
延宝八年庚申九九九年三十七等道圭山霊巌寺
号真了院殿涼岳道智居士

女子
大島雲八義尊妻

女子
実湧口左京亮室女
山口陣五麿門直房妻

女子
母織田主計頭貞置女

高泉
母菖蒲
京極能之助 伊織
寛文十三年癸丑生江戸
延宝八年為同姓伊織高昌養子

高方
母同
京極三之助 齊宮

延寶八年庚申十二十二師日五百石
元禄 年 為部曲組頭
宇保九年丙子十二廿五致仕
同十六年癸未十二九年
号淨照院殿涼岳道雲居士

安芸川東海寺地中清光院

某
妻

高完　京極求馬
寛文二年壬寅生　寛文四年甲辰十二月廿五日蒙御目見
寛文十一年辛亥十二月廿五日従五位下侍従
貞享二年乙丑生於江戸
享保九年甲辰十二月廿五日蒙御目見五百石於菊間御老中列座松平
左近將監傳之為小普請組由渕下野守支配
同十三年戊申二月廿五日為寄合
為小普請組村木修理大夫支配
寛文二年壬寅八月廿三日蒙御目見御書院番
安永七年戊戌七月二日卒
号瑞雲院殿清嶽義涼居士

高虎　京極左門
寛文二年壬寅生　寛文四年甲辰十二月廿五日蒙御目見五百石於菊間御老中列座松平
元文二年丁巳八月三日家督五百石於菊間御老中列座松平伊豆守
傳之為小普請組村木修理大夫支配
同四年己未六月七日為御書院番
為進物番出役　宝暦八年戊寅六月九日小姓組
明和二年乙酉二月七日寄合
安永五年丙申八月二日卒
号清光院殿天明四年辰四月二日卒七十五歳
清光院号大心院殿道海義清居士

高朝　京極又太郎
廿
安永二年癸巳十二月九日卒
号真空院殿實林義相居士

高薫　京極岩吉
廿四
安永元年壬辰十一月十六日卒
号如幻院夢影宗泡居士

高　廿　京極　主税　左門

天明四年甲辰七四歳　五百石　於菊間而御老中列坐　久也　大和守信之
為中書令
寛政　年
享和元辛酉正　九　為御小性組　名何當也

高典　廿　京極　勘負　弘助　舟助

享和元辛酉四三歳　五百石　無小物成
於菊間而御老中列坐

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

高明　京極隼人　備後守　主膳正　隼人正　致仕道意
母は　女松平下總守忠明女

一万治三年庚子生於江戸
寛文十二年壬子四月二日始　御目見献時服二御太刀銀馬代
延宝二年甲寅四月九日　嗣　遺領一万千六百四十四石同三年乙卯十二
之献御太刀金二枚時服二又遺物刀　備前長光七枚
廿六叙諸大夫改備後守同四年庚辰正七拝謝之献御太刀銀馬代
貞享元年甲子九月十晦　領知　御朱印実同五年戊辰四朔参三日
拝謁能可拝見之旨同二旨著　獎斗目半上下登　城献御太刀
御脇差其外拝見馬元禄十二年己卯四月九致仕隠居人正
同年五十九隠居　御禮　献御太刀金馬代御刀　備前正光
宝永六年己丑剃髪号道意　備前盛光十枚
享保十七年壬子十二月三幸去年六十七歳
于智応院殿　前典膳卿仁譽宗受道意大居士

某　京極孫六

高之　京極鍋千代　主殿　主膳正
母家女房

室　脇坂淡路守安政女子
元禄九年丙子十二月七日生
婚姻

延宝六年戊午正於江戸
貞享三年丙寅三月始　御目見元禄三年庚午十二月朔日光
御書請成就御能與行並　城拝見也同七年甲戌二十五拝謁
常憲公御講釋同廿日退　御於大廣間加賀守邸是時詰勝手
還　御時　御目見而拝謁御講釋拝見御能馬
同十二年己卯四月九家督賜二万千石外方知五百石於
外記高重同年五十五拝謝之献御太刀馬代金二枚時服二更

同十三年庚辰三十九當秋大坂雁木坂加番同年六廿八御暇賜
時肢四頭織同十四年乙巳九朔依願御暇賜時肢四頭織
同十五年丙午六十在所御暇賜時肢四頭織
同十六年丁未九二為日光御参詣奉行同四月御暇賜
同十七年戊申三廿五當秋大坂雁木坂加番同年六廿八御暇賜
寶永二年乙酉九朔依願御暇賜時肢四頭織
同七日御暇同廿一日依願御禮奉行
主膳正同年四十八拜謝之献御太刀銀馬代同年三十六當秋
大坂青屋口加番同年六廿八御暇賜
正徳二年壬辰四十一賜領地　御先代也
於土野而　旨昌君御法會中新清水口命歟番馬
同三年癸巳三十九當秋大坂雁木坂加番同年六十一御暇
同四年甲午九朔依願御禮奉行同年十一廿六朝出火於居城望
無盡無類焼領知同年十二六當方遠慮同九日　御免也
享保二年丁酉二六當秋大坂青屋口加番依願同而御老中列坐
井上河内守傷之同年六十二御暇賜時肢四頭織同三年戊戌二六
依願奉同年十一賜領知　御茶所奉同四年己亥二十二當秋
大坂青屋口加番同年六廿八御暇賜時肢四頭織
同八年癸卯二三於在所而奉書之同年四十六
与證源院殿大禮當道倫

高重　京極小記　初名重之助

妙泰女

元禄十二年己卯四廿九方知江州蒲生郡内五百石為高合
同十五年壬午拜謝之献御太刀銀馬代同年十十賜居邸奉
正徳二年壬辰二九九年
号輪世中院殿法禮道樹居士
於深川霊巌寺

高富　京極伊勢　左兵衛

實　京極主膳正家臣　宇田伊左衛門安良男
實母

妻　安部次郎兵衛信　女
　　明和二年七月八日死葬雲巌寺
　　号知教院殿光誉明真大姉

正徳二年三月廿九日五百石為寄合同年七月一把目御禮
献御太刀銀馬代廷二十二年五月十二日廿六為御小性組
宝暦七年十五七十九九年雲巌寺
午教學院殿富春俊道居士

高得　京極右京　伊兵衛

妻　安部次郎兵衛信　女
　　午十月九年午月廿二日

宝暦七年十月廿二日十二廿七跡目五百石為小普請組山口民部支配
同八年寅三十八歳目御禮献御太刀銀馬代同二年六月廿五日
院号伊澤播磨守組同十一年亥十一月九日致病死和泉守
上覧同廿日賜金二枚明和元年甲午十七日易年四十二

女子　千代
　　安部家女

高好　京極主膳正
　　新規為
　　後為中大夫

高朗　京極主膳正
　　新規為
　　後為中大夫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

政道　京極司馬
　嵩
高次　京極要人
　嵩

高房　京極久萬之助
　女子
　元禄四年辛未七十六為八幡宮本坊
　侍子貞享元年相模守僧之
　元禄十二年卯五月

某　京極傳之助
　女
　元禄九年丙子七月為李門養子

季明　本間岩松十左衛門
　女家女
　李豊婚養子

某　京極鍋之助
　女
　腋坂淡路守安照女
　元禄十四年辛巳十二月

高長　京極内匠　右近　備後守　左膳正
　實内藤豊前守式信二男
　實女家女房
　宣養父高之次
　元禄八年乙亥生於奥山棚倉
　正徳四年甲午九十二為堺養子同十五日始　御目見、歳時賜二銀馬代
　享保八年癸卯四二嗣遺領一万千百四十四石於芙蓉間而御老中列座
　同年十八日叙諸大夫改備後守於御白書院縁頬而御老中列座
　同年十八日拝謝之献御太刀銀馬代
　水野和泉守傳之同北八日拝謝之献御太刀銀馬代
　同九年甲辰二十二当秋大坂雁木坂加番於芙蓉間而御老中

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

列坐安藤對馬守傳之同年六月八御暇賜時服四羽織
同十七年乙未八月八御所御禮獻而鞍覆五懸銀馬代
同十一年丙午三月始在所御暇賜老物二疋同十三年戊申二月為嘗秋
大坂加番屋口同年七月御暇同十四年己酉始有所
延享三年丙寅十一賜領知 御朱印也宝暦十年庚辰十九
賜領知 御朱印同年十一月廿日拜謝之獻御太刀金馬代
同六年丙子四月辛丑年七十五歲葬于源蓼院殿前典膳卿廓墓
青常光道仙大居士

女子　養子高長室

某女

寛延四年辛未二月廿八日卒法名晴雲清流信幻了夏童子

高久　京極千之助　右近　主殿　備後守　備前守

實同姓霜雪織部高庭
實女同姓齋宮高方女

室養父高長女

室木下美濃守種茂女

享保十四年己酉生於江戸
同年十二月五日始拜謁
明和二年乙酉八月廿四日卒年四十四葬于武州世田谷山自性院
同十五日拜謝之獻御太刀馬代
同年十二月十八叙諸大夫改備後守同廿八御暇賜老物二疋自宅賜同二疋
同三年丙戌六十三始有所御暇賜時服四羽織
同七年庚寅二月廿三高秋大坂寺院
須織同八年辛卯九月御禮奉行同八日御暇賜時服三羽織
安永六年丁酉九月廿九日卒于本所御屋敷而御葬禮
同十日於 御座敷而御禮奉行同八日御暇賜時服三羽織

同九年庚子二月高秋大赦加高雁来候同年七月御暇賜御衣
天明元年辛丑九十五歳所同四年甲辰十九卅後州名表濱祖祝
真野四郎左衛門文脩所百姓人令駈動非可捨置之可出人數旅
行表濱也由是同夜丑刻一番手羽二十日巳刻二番手人數出之
同十四日夜丿新鳥同七年丁未七月為大御番頭
同八年戊申二月賜領知 御朱印
拜謝之同廿八日賜黄羅下酒井飛驒守邸家作剋之可上仰来於町邸
内也同年九月上納本於町居邸内北方二手伊也同十日御勝手掛
同年十二月八賜御拳白鳥御吸物
寛政元年己酉二月三為 御誕生御用取扱同年四二
御姫君御誕生乃 召御前而賜時服五月
大夫人賜以下之差物三十文同年八月御暇賜御拳鶴御吸物
賜御酒御吸物矣同年十二月八賜御拳鶴御吸物矣

享和元年辛酉七十改備中守
文化五年戊辰四十九年去年八十歳葬霊巌寺

女子
母家女

養子高久 室 来嬰兒

女子
母

高備 京極主水 周防守 室 宝暦七年丁丑生於江戸
母木下美濃守種恭女 安永二年癸巳十一月十五始 御目見献巻物二御太刀銀馬代
天明八年戊申十二月十六叙諸大夫改周防守同九年二月謝之献銀馬代

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

文化五年八月六十四嗣遺領廿四
芙蓉門院御老中列坐十月大
仙太刀巻物二合二枚
同九年正月五為若年寄
文政九年正月三改止總介同
同十一年四月十九日一位病絆於
傳之賜時服五疋同廿八日馬場先
鍛冶橋内堀大和守邸旨於芙蓉門院御
傳之
廿後州中郡内十八郎一万百四十石
下總州猿島郡上和田郡内二万
四十四石余 外二百三十七石高
下總州猿島郡内 五石余
寛政二年十月廿後州中郡峯一万千百四十四石余
仙太刀猿頭傳之同年同六日拝謝之
同十年十月二賀 御昇進御位階
芙蓉門院御老中列坐青山下野守
傳之賜時服五疋同廿八日馬場先御門内居邸為御用地賜
鍛冶橋内堀大和守邸旨於芙蓉門院御老中列坐青山下野守

藤掛安之進　左京

永憲　母某女

為藤懸監物永也養子

女子　母某女

秋山修理　妻

某　母　京極

某　母　京極

某　母　京極

天明二年壬寅四月廿五日寂歳寺
号香蓮院瑞峯露現大童子

天明元年辛丑十二月廿六日寺
号性了院念覚元夢大童子

天明四年甲辰正月廿日寺
号瑞華院幻相歓笑大童子

高寧　母　京極仙之助　主殿

寛政九年丁巳六月病

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

大久保飛騨守　妻　嶺三枝右近守政女

牧野兵庫頭忠寛妻　未嫁忠寛死再嫁

山口但馬守　弘敬室

城　與一郎　妻

上田左太夫　妻

能勢能之丞　妻

三枝宗四郎　妻

三枝源八郎　妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

高藤　京極千之助　壬水　備後守
　妙

文化十年六月廿九日為嗣子於芙蓉間而牧野備前守傳改壬水
同　年　始　御目見献巻物二鉾馬代同年十二月十六日諸家改備後守
同　九月廿日拝謝之

一色宮内
　妙寿女
津田義三郎
　苗

高信　京極主膳　備前守
　妙寿女

為一色内匠
　養子
為寺倉津田修理
　養子

文政十三年庚寅十二月廿四日為嗣子於芙蓉間而水野出羽守傳之
天保二年辛卯　嗣遺領壱万石後加中務少輔奉一万千石四十四万石
同　御礼献御太刀馬代金二枚巻物二
同三年壬辰十二月十六日諸家支改備前守於御白書院縁頬御老中
列座大久保加賀守傳之同日北一日拝謝之献御太刀銀馬代
同四年癸巳二月廿日光御参詣春行代於芙蓉間而御老中列坐
　奉筆蔵寺
同五年甲午正　辛丑年

京極富五郎
京極寅之助
京極勇之助
　養子

福山飛騨守義宣孝

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

高鎮　京極大膳
　　守貞序

天保二年
芙蓉間御老中列座
同五年四月二十日　辛丑

（朱）始建侯
高景　京極淡之進
　　寛和二年六月廿日
　　寛和二年六月廿日　従五位下弘徽子
　　生山口但馬守弘敦子

天保五年四月廿六日　嗣跡領卅万石
於芙蓉間御老中列座

嗣跡領卅万石
於芙蓉間御老中列座
天保二年四月廿六日　辛丑

嗣跡領卅万千百四十四石余
於芙蓉間御老中列座
天保五年四月廿六日　辛丑

右近将監

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用